



# 学校だより

練馬区立光が丘第一中学校  
平成 27 年 2 月 27 日発行

<http://www.hikarigaoka1-j.nerima-tky.ed.jp>

## 新たなスタートへ

校長 境 田 聡



校庭の梅もほころび、木々の枝に春を感じられる頃となりました。いよいよ3月を迎え、光が丘第一中学校も1年の締めくくりをする時期になりました。3月は別れの月とも言われ、また新たな年度のスタートの準備をする月でもあると思います。

3年生の進路選択の期間も、あとわずかになりました。いろいろ悩み、迷い、不安になることがあったことでしょう。それを乗り越え、自らの力で手にした進路決定です。心からおめでとうと祝福したいと思います。しかし、3年生にとって、この進路選択が自分にとってよかったと思えるのは、これからのがんばりにかかっています。4月からの新しい生活のスタートの準備を怠りなくすすめ、自分自身の進路選択が正しかったと思える生活ができることを信じています。

3年生には、残された光が丘第一中学校での生活を精一杯がんばり、卒業式、ボランティア活動、卒業遠足など、1つ1つの行事を大切にし、よき光が丘第一中学校の伝統を築いてほしいと思います。

さて、1・2年生は、この1年の締めくくりの時期を迎えています。3年生を心を込めて送り出す準備、4月からは自分自身がそれぞれ2年生、3年生となる心構えをつくっておきましょう。そのためには、進級するうえでの新たな目標や決意を考えておくことが大切です。平成27年度の光が丘第一中学校の活動を大いに実りあるものにしてください。

## 3月の予定

- 2日～ (月) スキー移動教室(2年)
- 5日 (木)
- 6日 (金) 3年校外学習
- 10日 (火) ユニセフ募金 ~12日(木)
- 18日 (水) 卒業式予行 卒業を祝う会 16:00
- 20日 (金) 第31回卒業証書授与式
- 24日 (火) 美化活動 保護者会
- 25日 (水) 修了式
- 26日 (木) 春期休業日始
- 4 / 6 (月) 始業式
- 7日 (火) 入学式

## 光一中生の活躍

- 第6回中学生「東京駅伝」練馬チーム初優勝  
女子1位、男子2位 総合1位  
本校からは佐藤希奈(2年)さんが出場
- バレー部：1年生練習大会 第2位
- 吹奏楽部：アンサンブルコンテスト  
A部門、B部門 ともに 銅賞

## お知らせ

練馬区の小中学校は平成28年度より3学期制に移行します。

保護者アンケート、生徒アンケートをもとに平成 26 年度の学校評価を行いました。保護者の皆様に報告させていただきます。ご協力ありがとうございました。

## 平成 26 年度 練馬区立光が丘第一中学校 学校評価報告書

### 1 自己評価結果

#### (1) 概要 (達成率は学校評価アンケートの平均値で算出した)

【重点目標 1】 基礎・基本の学習内容の定着 達成率約 76.5% (昨年度 66.5%)

学習指導要領に則った授業改善を進めながら「小学校と連携した課題改善カリキュラム」や「言語活動の充実」を中心に自己の授業を振り返り、生徒には繰り返しの学習によって基礎・基本の学習内容の定着を目指した。

わかる授業、喜びのある授業の展開

方策 授業評価の実施により意欲を引き出す教材の工夫や指導技術を高める

教員は生徒の実態を捉え夏季休業中に授業改善推進プランを作成し公表した。自己の授業改善を行った教員は 85%。大型 TV や電子黒板などの教育機器を活用しはじめる教員も増えてきた。

本校は、小中一貫教育実践校として「義務教育 9 年間」を見通した学習の研究を行っている。小学校の既習事項を振り返り、中学校の学習につなげ、繰り返しの学習を意識した授業を行う。小学校との授業研究を続け 9 年間を見通したカリキュラム作りをすすめる。

方策 授業規律の確立・落ちついた学習環境を整える

「授業が始まる前に、必要な道具を机の上に準備している」に「そう思う」「ややそう思う」(以下「そう思う」と解釈する)と回答した 82%の生徒とは反対に 18%の生徒が「ややそう思わない」「そう思わない」(以下「そう思わない」と解釈する)としている。「私語をする生徒がいると注意し合う学級ができています」としたのはわずか 23%(昨年も 23%)であった。学習に対する姿勢に引き続き課題が見られる。生活指導を展開するとともに授業改善を進め生徒にとって魅力ある授業にしていく。

方策 評価計画を明示し、自己評価や成績表をもとに面談を行い、課題を理解させるとともに生徒の意欲を引き出す

校内研修では、「適正な評価・評定」に関する研修を教育指導課より講師を招いて取り組んだ。自分の「評価・評定に納得している」生徒は 62%(昨年も 62%)であった。「保護者、生徒の評価に関する説明」は各教科で説明を果たしながら改善をすすめている数字ととらえる。

読書・図書館活用の習慣を身に付ける

方策 朝読書の定着、図書館利用を教科等で推進する

図書館管理員の配置で図書館環境が良くなった。保護者ボランティアも月に数回参加し、図書館運営がすすんだ。図書館の利用生徒数も昨年に比べて大幅に増加した。朝読書も定着してきたが、読書時間の増加に至っていない。また、教科等の活用では、総合的な学習の時間での調べ学習での活用はあったが、教科での利用はすすんでいない。

図書館ボランティアと連携し、総合的な学習以外でも教科での調べ学習に活用するよう取り組む。

【重点目標 2】 健康で調和のとれた生徒の育成 達成率約 85.5% (昨年 83.0%)

生徒の実態把握と共感的理解

方策 いじめ防止、不登校未然防止を図る

「いじめを防止する学校になっているか」との問いに53%（昨年53%）の生徒が「そう思う」としているがほぼ半数は不安を抱えている。これは昨年とほぼ同数である。「人の嫌がる言葉、傷つける言葉は言わないように心掛けている」は79%がそう思うとしている。また、保護者は80%（昨年75%）が学校の取り組みを評価している。少しずつだが毎年上昇している。今後も学校の教職員は、生徒会、部活動を含めすべての場面でいじめを防止する意識を高め取り組んでいく必要がある。また、生徒の観察や保護者や地域の情報に敏感になるとともにスマートフォン等によるネットいじめについても啓発・指導を続ける必要がある。

「いじめ防止対策推進法」に則って、本校の「いじめ防止基本方針」を策定しいじめのない学校づくりを行う。

#### 方策 生徒、保護者との信頼関係を築く連絡、教育活動の推進

教員は「保護者との信頼関係を築くこと」が学校の改善につながる（93%）と考え取り組んできた。保護者のアンケート結果からも「保護者の質問や相談を快く受け入れている」に84%がそう思うとしている。「学校や学級は過ごしやすい」との問いに69%が「そう思う」としているが残り31%は「そう思わない」とし、「問題があったときは先生や保護者に相談している」は46%（昨年46%）、「困ったことがあれば相談室を利用したい」は31%（昨年31%）と低いままである。相談室を充実させるべく、スクールカウンセラーと心の相談員との連携、担任教師や養護教諭との情報交換を行ったが、成果はまだ出ていない。気軽に相談へ結びつける手段を考えたい。生徒の悩みや困っていることの解決に少しでも役立てるような相談室の運営を目指していく。

#### 基本的な生活習慣の確立

##### 方策 挨拶の励行・社会でのマナーの指導を行う

挨拶の励行や校外学習などでのマナーについての指導を継続的におこなった。保護者77%（昨年72%）生徒77%（昨年77%）が「挨拶ができています」と回答があった。小中を通じて、生徒会の挨拶運動、部活動、学級指導においても挨拶指導から改善を図っていく。また、体験学習など校外への学習活動では、マナーの指導を重点に行っている。生徒の89%が「校外学習などの校外での生活では、社会のマナーに気を付けて行動している」と回答している。

#### 規範意識・人権意識の育成

##### 方策 体罰・暴力のない学校づくりを行う

教師の指導に体罰はない。本校ではそれは徹底している。「本校の先生は、体罰を行わない」との問いに生徒のアンケートでは81%が「そう思う」としている。また、生徒間の暴力行為についても防止を図っていく。今後も、東京都教育委員会が発行している人権教育プログラムの活用や道徳、全教科、部活動を含めあらゆる場面で、人権尊重の態度を育成する。さらに教員が自身の振る舞い、言動を見直しながら人権意識を高めていく。

【重点目標3】 生きる喜びと感動のある学校 達成率約86.3%（昨年85.5%）

#### 学校行事の充実

##### 方策 活躍の場を与え、個と集団の成長を図る。

保護者は「学校は、お子様が活躍できる場を設けている」に82%（昨年度75%）が「そう思う」としており、教員は、生徒一人一人に活躍の場を設けるように活動を進めていると答えているが、生徒は「学校には自分が活躍できる場がある」との問いに「そう思う」は56%（昨年度56%）であった。保護者と生徒の意識の差が広がった。今後も多くの生徒が、活動

の場をもち、達成感が得られるように、行事・教科指導・学級指導を通して計画的に取り組む。  
生きる力をはぐくむ

方策 校外学習・体験学習を通して、自ら考え行動する力、将来について考える力を身に付ける。

保護者は体験学習の成果を好意的にとらえている。「生きる力を身に付けるのに役立っている」に90%（昨年度87%）が「そう思う」とした。生徒も「職業調べや職場体験を通して将来の夢や目標を明確にもてるようになった」に55%（昨年度55%）が「そう思う」と答えている。ただ、1年生はアンケート時には職業についての学習がおこなわれておらず、課題として残った。それぞれの取組の際に個人が目標を設定できるように推進し、それに基づいた評価を行うことで、「生きる力」に結びつけるように指導していく。

健康・安全指導の充実

方策 生徒の安全を第一にした計画的な生活指導

教員、生徒、保護者ともに安全を第一にした指導を期待し、実行していることがわかる。すべての教育活動において安全指導、防災教育の視点に立って計画、実施をしてきた。保護者の「本校の活動は安全に配慮し、計画的に実行されている」は95%（昨年度92%）が「そう思う」、生徒は「防災や安全について知識や行動が身に付いている」に77%（昨年度77%）が「そう思う」とした。今後も繰り返し指導や訓練を行うことで避難行動を身につけさせる。

【重点目標4】 家庭や地域との連携 達成率約93%（昨年79%）

保護者と共同して義務教育9年間を見通して生徒の育成を図る

方策 小中一貫教育研究の推進

小中一貫教育実践校として年間計画に基づいて実施できた。保護者アンケートによると「研究活動を知っている」は79%であった。引き続き9年間を見通したカリキュラムに基づく実践、改善を行う。保護者や地域の方と共に児童・生徒の健全育成に努める。

方策 ホームページ、メール、電話、面談を通して保護者と綿密に連携する

ホームページ、メールを活用し学校の情報を伝えた。90%（昨年度93%）の保護者が役立ったと回答した。メールを区の学校連絡メールに1本化した。未登録の保護者家庭があるので引き続き登録のお願いをしていく。

校外学習、宿泊学習、学校の緊急連絡などメールやホームページを活用し、家庭との連携を密にした。メールを登録していない保護者、ホームページの見られない保護者への連携も忘れずに取り組んでいく。

## 2 学校関係者評価

【学力向上について】

学力向上は保護者が最も望むことなので、学力をつけて欲しい。先生方も課題に思っているようなのでよろしくお願いします。

【健全育成】

挨拶ができていて気持ちが良い。地域で特に問題と思われることはなくなった。以前は自転車に乗って通学する生徒も見受けられたが、今のところはいないようだ。下校途中の立ち話や男女で長時間しゃべっている事もなくなった。良い状態になっているようだ。

ホームページやメールとはちがうが、子供のスマートフォンが心配である。小学校でも1年生から持っている児童もいる。禁止であるにもかかわらず、放課後のひろばに持ち込む児童も

いる。ネットいじめという言葉もあって、保護者がしっかりしないといけない。一方で、18歳までにスマートフォンなど使えるようにするという話もある。

保護者が子供に迎合しているような場面も見るが、それでは健全に子供は育たない。保護者は「うるさい」くらいでちょうど良いと思う。

### 3 評価結果の公表等

- (1) ホームページに自己評価と関係者評価の公表
- (2) 学校だよりで学校評価報告書の全保護者への報告